

# 札幌市立認定こども園 にじいろ

〒004-0832

清田区真栄 2 条 1 丁目11-20

## 【真栄小学校との関係や連携に至る経緯】

- ・認定こども園にじいろの卒園児の中で、真栄小学校に入学する幼児は最も多く兄弟関係も多い。
- ・平成 24 年度から札幌市立認定こども園にじいろ、国際大付属幼稚園、札幌あさひ保育園、真栄小学校の 3 園 1 校の交流を計画的に行うようになり、現在に至っている。

## 【年長児と真栄小学校との交流】

- ・小学校の先生が来園し一緒にゲームをしたり、絵本の読み聞かせをしてくれたりする。
- ・小学校に行き、プールを借りたり、発表会を見学したりする機会をつくる。また、1 年生の生活科の授業に年長児が加わり、どんぐりを使って一緒に工作をする。

## 【保護者が小学校を知るための連携】

- ・園で行われるクラス懇談会で、小学校の先生から保護者に小学校生活に向けての話をしてもらう。
- ・小学校から年長児の保護者に 1 年生の授業参観の案内をもらい、任意で参加し授業の説明を聞いて参観したり小学校の先生に質問に応じてもらったりする。

## 【職員同士の連携】

- ・小学校の先生に園の公開保育に参加してもらい、園の職員が小学校の授業参観や授業研究に参加させてもらう。
- ・年間計画の作成や交流のまとめを行ったり、交流のたびに計画や反省を行ったりする。

## 【成果】

### <幼児にとって>

- ・小学校や小学校の先生が身近な存在に感じられるようになり、学校に対するイメージがもてたり、入学に対する安心感をもったりすることができた。
- ・幼児が小学校に行くだけでなく、園に小学校の先生が来てくれ、一緒に遊んでくれることでより親しみの気持ちをもつことができた。

### <保護者にとって>

- ・園の職員と小学校の先生がつながっているということで保護者に安心感を与えることができる。
- ・入学に対する不安や疑問を気軽に言える雰囲気をつくることで保護者同士共感し合ったり、具体的な話を聞いたりすることで安心につなげたりすることができる。

### <保育者にとって>

- ・小学校の先生と園の職員が互いの子どもの保育・授業を見合うことで保育や教育の理解をすることができる。

## 【考察】

### <幼児にとって>

- ・小学校の先生が園に遊びに来てくれることで幼児は安心して関わるができる。自分たちの知っているゲームやお話しをしてくれることでより親しみを感じ、小学校の先生のイメージをもつことができる。短い時間で一人一人の幼児と関わる時間は少ないが丁寧に声をかけてくれ、幼児にとって貴重な時間となっている。
- ・小学校に行く機会をいろいろな形で体験できることで小学校生活に期待をもつことができている。今後も柔軟に交流の方法を検討していきたい。

### <保護者にとって>

- ・就学する小学校との交流を希望する保護者もいるが実際に連携すると地域の小学校の先生としていろいろな情報を提供してもらったり、不安なことに対応してもらったりすることが有効である。

### <保育者にとって>

- ・地域の小学校が連携の核となって進めてくれていることで、継続した連携ができ、その年度の互いの実情や子どもの実態に考慮しながら計画を立てることが有効である。

# 学校法人 札幌国際大学 札幌国際大学付属幼稚園

〒004-0813

清田区美しが丘3条1丁目2-1

## 【真栄小学校、認定こども園にじいろ、あさひ保育園との連携】

- ・ 近隣の幼稚園、保育園の園児交流
- ・ 小学校教諭による絵本や教科書の読み聞かせや質問タイム
- ・ 小学校の運動会練習見学
- ・ 小学校内見学など
- ・ 真栄小学校へ就学する園児が多く、また、卒園児も多く在籍している。
- ・ 幼稚園から近い場所にあるので、園児が身近に感じられる小学校である。
- ・ 認定こども園にじいろ、あさひ保育園共に、就学先が同じ園児が多く在籍している。  
近隣の公園で会い、一緒に遊ぶ機会もあった。

## 【成果】

- ・ 小学校の様子が分かりやすく、就学することに期待がもてるようになった。
- ・ 様々な幼稚園の園児が小学校へ就学することが分かり、安心につながった。

## 【考察】

- ・ 小学校のイメージが具体的になり、憧れや期待をもつことができるようになった。
- ・ 小学校の授業時間、幼稚園・保育園の保育時間がうまく重ならないことがあるので、行き来の方法も含め調整が難しい部分がある。
- ・ 平成28年度は、2月下旬にも交流を予定。



理科室で約束を確認。



校長先生、こんにちは。



図書館で本が借りられることに驚く子どもたち。

# 認定こども園 北野しらかば幼稚園・保育園

〒004-0865

清田区北野 5 条 2 丁目 2 -20

## 【小学校との連携】

- ・ 近隣の小学校 4 校へ、保育教諭が伺い授業見学。(7 月・8 月) 授業中に 15 分間時間をいただき、保育教諭がパペットを使ったお話をします。子どもたちから感想を聞いたり、意見を求めたりする。
- ・ 昨年度も保育教諭が小学校を訪問。1 時間目～5 時間目までの授業を見学させていただいた。昨年度と同様の学校を訪問。(北野小学校、北野台小学校、北野平小学校、清田小学校)
- ・ 1 月には北野台小学校へ、年長児と一緒に訪問。5 年生と交流。絵本を読んでもらったり、一緒にゲームを行ったりして楽しむ。
- ・ 年間を通して、学校の授業参観に伺っている。



【パペットを使って授業を行っている様子】

## 【成果】

- ・ 学校の先生と情報を共有できる。小学校へ就学する幼児の様子を伝えることができる。
- ・ 保育教諭が訪問することで、小学校の流れ、様子が分かり今後の保育に役立った。
- ・ 幼児が学校を訪問することで、小学校への期待が更に高まった。



## 【考察】

- ・ 訪問を始めて 2 年目になるが、小学校を知ることで、円滑に引継ができると思われるので今後も継続していきたい。
- ・ 子どもたちと小学校へ訪問することはとてもよかったので、今回は決まったクラスのみ訪問したが、全クラス訪問できるよう、日程を調節したい。

# 札幌市立清田小学校

〒004-0841

清田区清田1条4丁目3番30号

## 【清田幼稚園との連携】

### 連携の様子

- ・生活科「あたらしい1年生をしょうたいしよう」で、現1年生が来年の1年生を小学校へ招待し、小学校のことを知ってもらったり、仲良くなるためのゲームを考えたりする。

### 連携先との関係と連携に至る経緯

- ・清田幼稚園は、清田小学校の近隣に位置し、行事等でお互いのグラウンドや体育館を貸し借りしている。そのような中で、小学校では、生活科「あたらしい1年生をしょうたいしよう」の学習があり、幼稚園では、来年度に向けて少しでも小学校への不安がなくなるように、といった双方のねらいが一致し、このような連携を取るようになった。



【1月29日 清田小体育館】 『なかよしの会』で1年生と年長園児が交流した様子

### 【成果】

#### 連携することでできるようになったこと

- ・小学校児童は、お兄さんお姉さんとしての自覚をもてるようになった。幼稚園児は、小学校への見通しをもてるようになった。

#### 先生の子どもに対する関わりが変わったこと

- ・小学校教員は、来年度入学して来る幼児の大体の様子をつかむことができた。また、現在のクラスの児童の成長を改めて感じ、誉めることができた。幼稚園教員は、来年度入学する小学校の大体の様子を知ることができた。また、現在のクラスの幼児に立派な1年生になるためにがんばろう、と意欲を高めることができた。

#### 子どもたちの気持ち

- ・児童は、お兄さんお姉さんとして、企画運営をはりきって行っている。園児は、小学校に期待を膨らませ、お兄さんお姉さんと遊ぶのを楽しみにしている。

### 【考察】

#### 継続することのよさ

- ・お互いの学校が連絡を取りやすくなる。

#### 新たな取り組みの検討

- ・生活科で作ったおもちゃでお店屋さんを開き、幼稚園児を招待する。

#### 問題点や改善

- ・年に何度かこういった機会があると効果的だと思うが、時間的に難しい。

# 札幌市立三里塚小学校

〒004-0802

清田区里塚 2 条 6 丁目 7-1

## 【里塚幼稚園との連携】

### ・連携の様子

年長児と 5 年生が年 2 回、相互に訪問し交流している。初回は、小学生が幼稚園を訪問し、朝の会に参加したり、ゲームと一緒にしたりして交流している。

2 回目は、年長児が学校を訪れ、小学校の施設や学習の様子を肌で感じることができるようになっている。また、ゲームを引き続き行い、親交を深めるように取り組んでいる。



【理科室の実験器具を紹介する 5 年生】

### ・連携先との関係

交流の一環として行うゲームについて、年長児が見通しをもてるように、幼稚園で取り組んでいるものを提案してくださるなど、よりよい交流を築いていこうとする関係ができています。

## 【成果】

- ・新年度には、6 年生と 1 年生という関係になり、関わる上で、互いにスムーズに関係を築くことができる。
- ・年長児は素直でかわいらしい幼児が多く、そのため 5 年生は一緒に活動するのをとても楽しみにしている。年長児に頼りにされるので、5 年生は大変意気にも感じている。たくましさや自信を獲得する活動となっている。
- ・交流を通じて、幼稚園と小学校相互の理解が深まっている。

## 【考察】

本校は、幼稚園と学校を相互に訪問しているが、先に小学生が幼稚園を訪問するようにしている。幼稚園児には、普段過ごしている環境の中で小学生と交流できるので安心感がもて、また小学生にとっては訪問する立場なので、企画運営を担う部分が少ないなどの利点がある。二度の交流を行う上では、双方の負担感を減らし、長く取組を続けるため適切であると考えます。



【幼稚園の朝の会では、5 年生も一緒に体操を行った】

## 【学校行事の連携】

### 「学習発表会」での交流

例年 9 月に地域・P T A・学校で開催する「みんなであそんじゃおう国」での交流に加え、今年度は、南清田保育園と連携し、1 年生の学習発表会の練習の様子を見学する機会を設けた。

保育園のお散歩コースに本校が入っていることや幼児の様子について日常的に語る機会があることを生かし、保育園の幼児の実態をある程度伝えていただいた上で参加していただいた。



【1 年生の演技に夢中になる子どもたち】

## 【成果】

### 「就学前児童→入学のイメージづくり 1 年生→進級の自覚」

入学前の幼児にとって、小学校を見学し、その中身を具体的に知ることは、入学への期待を高めるとともに、見通しが見つからないことに端を発する不安の解消につながると考えられる。また、幼稚園教諭・保育士からの「幼児に関わる様々な情報」を小学校教諭が実際にに関わり、見取ることで引継をより確かなものにすることができた。一方、1 年生児童は、年下の幼児と関わることで、年長者の役割や立場を自覚し、進級への意欲を喚起することができた。

## 【考察】

継続して連携をとることにより、担当者同士が共通理解に立ち、活動を広げることができた。また、校内体制のさらなる充実のためには、担当者が、幼小連携のねらいと成果を明確に示していく必要性を感じている。

今後、以下の 3 点から交流を見直し、幼稚園・保育園、小学校両者にとって有意義なものにしていきたい。



【園児に見つめられて張り切る 1 年生】

- ① 教員同士の日常的な情報交換・連携をさらに密に！
- ② 地域を学習のステージとしたカリキュラムの見直しを行い、交流の深まりと広がりをも！
- ③ 連携可能な園を広げる。

## 【北野しらかば幼稚園との連携】

現在の 5 年生が最高学年の 6 年生になった時に関わる年長児を小学校に招き、幼小交流会を開きました。児童が名付けた会の名前は、「たのっし〜うれっし〜なかよっし〜♪の会」です。

小学校では、児童は 6 年生になったその日から新 1 年生のお世話活動を始めます。新 1 年生とどのように接すればよいかを色々工夫する体験をすることにより、4 月から自信をもって新 1 年生に接することができるようになると考え、今回の交流会を行いました。また、交流会の経験を通して最高学年になるという自覚を 5 年生のうちからもつことで、他の活動も今以上に意欲的にできるようになると考えたのです。

当日は、5 年生が幼児の控室まで迎えに行き、小グループに分かれて絵本の読み聞かせや新聞じゃんけんを行いました。その後、体育館に移動して全員でじゃんけん列車や〇×クイズを行いました。抱っこやおんぶをする子、優しく話を聞く子、手をしっかりと離さずに連れて歩く子など、5 年生も幼稚園児も笑顔があふれる楽しい交流会になりました。

## 【成果】

- ・総合的な学習の時間の中で、準備・活動・振り返りを行うことにより、学習としての位置付けができました。
- ・幼稚園児の様子を思い浮かべ、楽しんでもらえる工夫をみんなで意見を出しながら考えることができました。
- ・交流会当日は、幼稚園児が楽しそうにしている姿を心から喜び、上手くいかなかったことを次に生かそうとする姿が見られました。幼稚園の先生から感想を話してもらったことも意欲につながりました。
- ・4 月に 6 年生になることを楽しみにする児童が増えました。



【読み聞かせをしている様子】

## 【考察】

- ・今回は、3 学期の取組でしたが、もう少し早い時期から計画を立て、複数回の交流をしていくことで、児童と園児の仲がより深まると思われます。
- ・他の幼稚園や保育園との交流会も計画し、1 年間を見通して、5 年生が活動できるようにしていきたいです。
- ・幼稚園や保育園のお散歩の途中に学校に立ち寄ってもらうことや、運動会の練習見学などの機会を増やし、日常的に連携できるようにしたいです。



【じゃんけん列車で遊ぶ様子】

## 【幼保小の連携】

### ①新 1 年生予定児童と 5 年生との交流

2 月に行う 1 日入学の際、5 年生がお世話係となり、教室を案内するなどの交流を行っている。6 年生の春にお世話をする予定の児童なので、5 年生はやる気が出て、良い交流となっている。他校の例を参考に平成 25 年頃より実施している。

### ②学習発表会児童観覧日への招待

学習発表会児童観覧日に近隣保育園の園児を招待し、学校の様子を見てもらう活動を行っている。行儀良く観覧する幼稚園・保育園の子どもたちの様子は、1 年生や 2 年生にとって良い刺激になっている。近隣保育園からの依頼により平成 25 年より実施している。



【学習発表会の見学をしている園児】

### ③学校便り等の配付・行事の確認

毎月の学校便りを近隣幼稚園・保育園に配付している。幼稚園・保育園の年間予定を参考に、可能な限り、大きな行事が重ならないように年間行事予定を考慮している。

### ④公開学習会（実践発表会）への参加案内

平成 23 年度及び平成 26 年度、本校で行われた公開学習会（実践発表会）への参加を呼び掛け、多数の幼稚園・保育園の指導者の方々に授業を参観していただいた。

## 【成果】

幼保小連携推進協議会等により、新入学児童の情報を事前を知ることができるだけでなく、他校の取組を参考にすることができ、入学後の指導に役立っている。

学習発表会では学校の取組を見学していただいて、園児が小学校生活に対する憧れや期待を抱く役割を果たしている。同時に、1 年生や 2 年生児童にとって、先輩としての自覚や次年度の入学を楽しみに思う気持ちへつながっている。

1 日入学での交流では、5 年生児童への意欲喚起にもつながり、年の離れた幼児のお世話を行うことへ興味をもって取り組んでいる。

公開学習会では、低学年への指導の充実を図るために、幼保の視点から貴重なご意見をいただくことができた。

## 【考察】

始まって数年の取組も多いが、確実に成果を積み重ねている。今後幼保小の連携がますます重要になってくることを考え、今後は、運動会の練習見学（招待）等、さらに取組を工夫し、充実させていきたい。

一方、5 年生と新入学予定園児との交流の時間をどの時数で確保していくか、教育課程上の位置付けをどのように考えるのかなどの課題がある。

# 札幌市立美しが丘小学校

〒004-0812

清田区美しが丘2条5丁目1-1

## 【『園児来校』の連携】

近づく入学を前に、2月から3月上旬にかけて美しが丘幼稚園、札幌あさひ保育園、里塚幼稚園の園児が、毎年別日に来校している。

小学校内を案内する中で、理科室では人体模型等の展示物に、音楽室では数多くの楽器に、体育館ではその大きさに、目を丸くしながら驚く園児たちの様子が見られ、微笑ましい限りである。

さらに、園児たちは各教室を巡って授業の様子を見学する。今年度は美しが丘幼稚園からの要望があり、学習発表会に向けての練習風景も見ていただいた。



### 【幼稚園での交流活動】

物語の読み聞かせ。聞き手である園児の興味が湧くよう、配役を替えたり読み方を工夫したりする5年生。

## 【『園児来校』の成果】

園児の訪問は、子どもたちの中で小学校入学への期待をふくらませると同時に、小学校生活に向けての心構えを改めるきっかけとなっている。

小学校の様子を園児に説明するにあたって伝える内容を明確にしておく必要があり、幼稚園・保育園の先生と事前にこまめに連絡を取り合うことが連携をより深めている。

## 【『児童訪問』の連携】

総合的な学習の時間の学習の一環として、5年生は美しが丘幼稚園と国際大学附属幼稚園への訪問を実施している。訪問日には、5年生児童が事前に計画・準備した「本の読み聞かせ」「紙芝居」「折り紙作り」「集団遊び」及び、園児たちが行事等に向けて練習した歌や踊りの披露を通じて、ほのぼのとした交流活動が行われる。

今年度は連携体制を一步進め、冬場のみ行っていた交流を秋にも設けて、年2回の実施とした。



### 【幼稚園での交流活動】

集団遊び（写真は『貨物列車』）の場面。園児たちの思いを汲み取りながら、優しく遊びをリードする5年生。

## 【『児童訪問』の成果】

4月からは、この子たちが『6年生&1年生』として「お世話する・される」関係となる。訪問による交流活動を実施することにより、児童にとっては自分たちが全て中心となって活動を進めることが求められ、「想定して計画する力」、ひいては、「物怖じせず進行する力」が培われるものと考えられる。年2回の実施を計画したことで、5年生児童のみならず、幼児児童の関わり合い方の伸びしろを見取ることができるようになった。

## 【考察】

入学後の「6年生&1年生」の関係づくりのスタートとして、この交流活動は効果的である。ぜひ継続させたい。

改善点として、子どもの実態を見取り、指導に生かしていくにあたり、今後も交流活動の時期や内容を固定化させず、最適なものを考案していくことを念頭に置いていきたい。

# 札幌市立平岡公園小学校

〒004-0882

清田区平岡公園東5丁目9-1

## 【保育園・幼稚園との連携】

### ① なかよしキャンプ

- 平成23年度より3年間、幼保小連携モデル事業「なかよしキャンプ」にモデル校として参加し、平成26年度からは、幼保小連携自然体験活動「なかよしキャンプ」の実施校に認定された。新年度に同じ小学校に通うことになる幼児（5歳児）と、児童（5年生）が一年前から交流を深めることを目的に、年間5回の活動が行われている。平成27年度は、本校の5年生14名、本校に入学予定の園児17名が参加し、一緒に野外炊事、宿泊などの自然体験活動を行うことを通じて関わりを深めている。



**「なかよしキャンプ」**  
【滝野自然学園での野外炊事  
～みんなで作ると楽しいね！】

### ② 生活科・総合的な学習の時間

- 2年生は、生活科「まちたんけん」の学習、近隣の保育園を訪問し、園の様子を見学したり、保育士の方にインタビューしたりするなどの活動を行っている。
- 5年生は、総合的な学習の時間「みんなに優しいまちづくり」の学習で、保育園や幼稚園との行き来の中で、園児に学校の中を案内したり一緒に遊んだりするなどの関わりをもっている。

## 【成果】

- ①、②どちらの活動においても、自分より年齢が下の子どもたちと関わることで、相手を思いやる気持ちが育っていると感じる。相手の目の高さまで下がって会話をしたり言葉の使い方を変えたり、どんな活動をすれば喜んでもらえるかを工夫したりなど、園児のことを考えて活動する気持ちが高まっている。
- 5年生は、6年生になったときに入学してくる1年生のお世話をとても楽しみにしている。そういった意味でも、5年生の時に「なかよしキャンプ」や学習の中で園児と触れ合えることは、とても有意義な活動となっている。

## 【考察】

- 「なかよしキャンプ」については、平成30年度まで実施校となっている。5年間の継続実施を通して、豊かな心と健やかな身体を育み、子どもたちが共に喜びを実感できるよう取り組んでいきたい。
- 2年生や5年生の生活科・総合的な学習の時間の取組は、内容を改善しながら継続して行っていく。また、他にも無理のない形で幼稚園・保育園と関わりをもてる場はないか、その機会を検討していきたい。



**「5年生総合的な学習の時間」**  
【遊んでいるうちにすっかり仲良し！】

# 札幌市立美しが丘緑小学校

〒004-0814

清田区美しが丘4条5丁目8-1

## 【ハートフル美しが丘】

地域の様々な世代の人と触れ合う学習。これまで、赤ちゃんと触れ合ったり、お年寄りの施設を訪問したり、中学生に勉強を教えてもらったりしてきた5年生児童と保育園年長児が休み時間を一緒に過ごした。

5年生はまず仲良くなるにはどうしたらよいかを考えて企画する。本校の教育活動の軸となっている異学年交流「ふれあい活動」で学んだことを生かして、自己紹介ゲーム、お絵かき、玉入れなどをすることにした。体の大きな5年生に、気後れ気味だった保育園の園児たちも少人数での交流で徐々に慣れ、最後の体育館遊びでは全員が笑顔で楽しんでいた。

地域の幼稚園、保育園とは職員同士のつながりを基に柔軟な連携ができています。これまでも1年生との交流や運動会・発表会の練習の見学など、小学校の様子を見る機会を設けたり、プールやグラウンド、雪山などで遊んだりする活動を行ってきている。今回の事例は児童と園児の直接の交流であり、本校5年生の総合的な学習の時間「ハートフル美しが丘」と活動内容が一致しているため、その一環として行うことが可能となっている。

## 【成果】

5年生にとっては、次年度、6年生として1年生と関わる自覚と意欲を高めることにつながっている。日頃本校で大切にしている触れ合い活動で学んだことを生かす経験もできる。相手を楽しませるにはどんな関わりをしたらよいか、事前に準備すべきことが分かるようになった。何より、相手が楽しんでくれることの喜びをその場で実感することができる。近くの公園などで会うと、園児の方から声をかけてくれるようにもなった。また、本校に入学予定の園児の様子を新1年担任に引き継ぐことができる。

## 【考察】

毎年実践することで準備や計画の下地ができているため、負担が少ない。また、課題が見付かったときにも改善できる。準備に多くの時間がかかったり、カリキュラムにない活動であったりするとほかの教育活動に支障がでてしまうので、それぞれのねらいが達成できる活動の一環として実施するとよい。年齢の異なる子ども同士が休み時間に遊ぶという簡単な活動ではあるが、学校生活の基本であり様々な学習の支えとなる友達づくりの土台ができ、その不安を入学前に取り除くことができる取組は児童にも園児にも意義ある活動であると考えている。入学後に行うことの単なる先取りは新鮮な喜びや意欲を損なうことになり、ともすれば問題の表出時期がずれるだけに終わってしまう。期待感を高めることと安心感が得られること、相互の発達段階に応じた学びとなっていることを大切にしたい。そのためにも、担当職員同士が顔見知りになり、気軽に話し合える関係を築くことでより有意義な情報交流を今後も継続していきたい。

